

【2021 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
児童青年心理学		選択	2	2.3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
前川 真奈美	B304	manami.maekawa	月曜日 10:40~12:40		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt; 児童期、青年期は、人の生涯のなかでも心身ともに変化の大きい時期である。本講義では、そのような児童期から青年期の発達の変化について基本的な知識を学ぶことを目的とする。加えて、それらの知識をもとに自分自身や周囲の他者について振り返り、自己研さんする姿勢や多様性を尊重する姿勢を身につけることを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt; 本講義では、児童期と青年期の発達の特徴について、主に「身体・運動機能」、「認知能力」、「対人関係」、「社会性」の観点から解説する。さらに、学校教育場面で見られやすい問題として「発達障害」を、青年期に見られやすい問題として「不登校」や「いじめ」を取り上げ、それぞれの概要と求められる支援について概説する。</p> <p>本講義では、Microsoft Teams を用いた同時双方向型の遠隔授業を行う。</p>				
学習上の助言	講義内容に関する質問は、オフィスアワーの他に、講義中およびリアクションシートでも受け付ける。積極的に活用して理解を深めてほしい。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	問いからはじめる発達心理学/著:坂上裕子、山口智子、林創、中間玲子/有斐閣/2014 年 よくわかる青年心理学 第2版/編:白井利明/ミネルヴァ書房/2015 年				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	児童期、青年期の「身体・運動機能」、「認知能力」、「対人関係」、「社会性」の発達の变化に関する基礎的な知識を身につけ、体系的に説明できる。			HSU (2)、WP(5)	
②	心理学の視点から、自分自身がどのような過程を経て現在どのような時期にあるのかを理解したうえで、今後どのように生きていきたいかを考え、自己研さんに励むことができる。			HSU(1)(6)、WP(1)(3)(4)	
③	日常場面で関わる子どもや同年代の他者について発達心理学の視点から理解を深め、彼らとの接し方に配慮できる。			HSU(1)(3)、WP(1)(2)(3)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション:生涯発達の考え方について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
2	児童期における身体・運動の特徴について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
3	児童期における認知の発達 1:ピアジェの認知発達理論の概要と、児童期以前の前操作期の特徴について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
4	児童期における認知 2:具体的操作期の特徴について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
5	児童期における対人関係の特徴について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
6	児童期における社会性 1:児童期以前の感情理解の発達について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
7	児童期における社会性 2:道徳性の発達について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
8	学校教育で見られやすい問題:発達障害の概要や求められる支援について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
9	青年期における身体と性の特徴について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
10	青年期における認知:形式的操作期の特徴と、メタ認知について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
11	青年期における自己の特徴について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
12	青年期における対人関係の特徴について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	
13	青年期に見られやすい問題 1:不登校の概要や求められる支援について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4	

【2021 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

14	青年期に見られやすい問題 2: いじめの概要や求められる支援について学ぶ。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4					
15	これまでの学習の総括を行う。	同時双方向型授業	講義中に示した課題に基づいて復習を行う。	4					
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照。								
達成度評価									
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計		
		70	0	0	0	30	100		
総合 力 指 標	知識・技術力	40	0	0	0	5	45		
	思考・推論・創造する力	30	0	0	0	10	40		
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0		
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	5	5		
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0		
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5		
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	5	5		
評価のポイント					フィードバックの方法				
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点							
試験	①	✓	講義内容の理解度について、学期末に定期試験を実施し評価する。定期試験では、専門用語に関する設問(選択式)と、講義で扱った知識を用いて日常的な事象の分析・考察を求める設問(論述式)を出題する。				Teams を利用して、総評や個別のフィードバックを行う。		
	②	✓							
	③	✓							
	④								
	⑤								
	⑥								
レポート	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
成果発表	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
ポートフォリオ	①								
	②								
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
その他	①	✓	毎回の講義終了時に Teams 上でリアクションシートの提出を求め、課題への解答、講義内容に関する気づき、発見、疑問などを記述してもらう。内容の妥当性や、問題発見能力を評価する。				次回の冒頭に、課題の総評やコメントへのフィードバックを行う。		
	②	✓							
	③	✓							
	④								
	⑤								
	⑥								
備 考									
<p>* Microsoft Teams を用いた同時双方向型の遠隔授業を行う。課題ダウンロードや映像視聴を行うため、授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。</p> <p>* 今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によってシラバスの変更が行われることがある。</p> <p>* 講義中に、自分の考えを発表する場や学生間の意見交換の場を設ける予定である。他者の考えを知ることで得られる気づきや発見もあるため、積極的な態度で受講することを望む。</p>									
<p><b>教員の実務経験:</b> 公認心理師資格を有し、2年間の現場経験を有する。</p> <p><b>実践的授業の内容:</b> 専門性とこれまでの経験を生かし、実践的な情報を交えながら授業を進める。</p>									